

Title :	マインドフルネスの神経基盤
Subtitle :	—意志作用と行為的直観に対する考察—
Authors :	村椿 智彦
(かな) :	むらつばき ともひこ
Organization :	東北大学大学院医学系研究科
Journal :	マインドフルネス精神療法
Volume :	3
Number :	1
通巻	3号
Page :	3 - 14
Year/Month :	2017 / 5
Article :	
Publisher :	日本マインドフルネス精神療法協会
Abstract :	<p>本論文では、日本的マインドフルネス心理療法である自己洞察瞑想療法 (Self Insight Meditation Therapy, SIMT) と西洋的マインドフルネス心理療法や従来の認知行動療法との差異、マインドフルネス瞑想に関する脳科学研究をもとに SIMT の理論的背景にある西田哲学の意志作用と行為的直観に対して脳科学的な考察を試みた。意志作用は、実行機能を司る背外側前頭前野を中心とした高次の認知コントロールが働く Top-down 型の処理がなされ、一方、行為的直観は default mode network の活動が低下することで自己意識が脱落し、内受容感覚や外受容感覚の処理、葛藤モニタリングに関連する島皮質や前帯状回を中心とした Bottom-up 型の処理がなされることが考えられた。今後、本考察を検証する実証科学的な研究が求められる。</p>
Practice :	論考
Keywords :	マインドフルネス 認知行動療法 意志作用 行為的直観 脳科学
<p>この機関誌『マインドフルネス精神療法』の一部の記事は、メディカルオンラインから配信されます。 メディカルオンライン → http://www.medicalonline.jp/ 「医中誌」(医学中央雑誌)にも一部の論文が掲載されます。</p>	
<p>ペーパー版の機関誌全体は、日本マインドフルネス精神療法協会から購入できます。 日本マインドフルネス精神療法協会 → http://mindful-therapy.sakura.ne.jp/</p>	